

☆☆☆「かしこく やさしく たくましい松っ子」に！☆☆☆

大村市立松原小学校
学校だより

一歩前へ

文責：校長 高木 修
令和4年2月14日No.22

☆☆☆子どもが「喜んで登校 満足して下校」する学校づくり☆☆☆

◆ 安全に正しく



先日、長崎県より、「げんき広場」という、保護者向けの情報誌が届きましたので、各御家庭に配付しました。中身を見てみると、「適切なネット・スマホ利用のために、大人ができることは？」という見出しで、誌面の4分の1を使った記事がありました。

本校でも職員間で、子どもたちの携帯電話（スマートフォン）所持のことや、SNSの利用、動画サイトの閲覧、オンラインゲームのこと等が話題になることがあり、この記事の内容については、決して他人事ではないと考えています。学校でも随時指導を重ねていきたいと思いますが、利用する場所は自宅であることがほとんどで、学校では把握できていないことが多くあります。例えば、対象年齢に達していないゲームの利用や、子どもだけの判断での動画や写真の投稿等ないでしょうか。また、オンラインゲームで誰とつながっているのか、時間を守っての利用ができていないのか等の把握はできていないのでしょうか。各御家庭でも再度、子どもたちとルールや利用状況の確認をしていただけたらと思います。

子どもたちが、安全に正しく利用することができるよう、しっかりサポートしていきましょう。

～「げんき広場」の記事の内容より～

「保護者が正しく知っておきたい4つの大切なポイント」

※提示されているQRコードを読み込むと見ることができる内容を紹介합니다。

(文言等、一部を変更しています。)

ポイント①:「時間の長さだけでなく中身に注目」

子どもがどんな使い方をしているのか、内容と時間を把握することが大切です。何にどれくらい使っているのかを、子どもと一緒に確認しましょう。



ポイント②:「ゲームプレイは《個》から《グループ》へ」

部屋で一人でゲームをしていても、オンライン上で友達や知らない人とつながっています。「誘う・誘わない」、アイテムを「もらった・もらわない」等でもめることもあるそうです。子どもがどんなゲームを誰としているか、対象年齢に達しているかを確認しましょう。

ポイント③:「SNS等でのいじめや誹謗中傷、どう対処すべき？」

相談しやすい親子関係をつくり、話はじっくり聞いてあげましょう。気軽な投稿が、他人を傷つけるおそれがあること、インターネットにあげた言葉や写真等は、後から取り消しができないことを子どもに伝えましょう。

ポイント④:「動画や写真は危険がいっぱい」

どんな投稿がトラブルの原因になるか親子で考えてみましょう。写真や動画の投稿サービスやアプリの多くは中学生以上が対象です。子どもの投稿は、保護者の管理が必要です。

「フィルタリングの活用」

あんしんフィルターやiフィルター等によって、有害・不適切なサイトへのアクセスやアプリの利用を制限します。子どもの成長に合わせて、簡単に設定でき、カスタマイズもできます。

なお、有害・不適切なサイトへのアクセス制限は、スクリーンタイム（iPhone）やファミリーリンク（Android）のコンテンツ利用の制限でも設定可能です。

記事の「スクリーンタイム フィルタリング設定方法」横のQRコードを読み込むと、設定方法のリンク集につながります。

「我が家のルール」

子どもの主張、保護者の意見を出し合おう

ポイントは、親子双方が自分の意見をしっかり出し合うことです。お互いが主張し合い、少しずつ妥協し合って決めたルールは長続きします。お互いが納得し、双方が尊重できるルール作りをすることが重要です。

ルールが守れなかったり、子どもが成長したり、生活習慣が変わったりするタイミングで、ルールの見直しをすることも大切です。

他律から自律へ

ルールを決める一方で大切なのが、自然体験や身体を使って得る実体験、人とのリアルなコミュニケーションです。様々な経験を積むことがインターネットの中で困ったり迷ったりしたときの、適正な判断力につながります。小さい頃のネットルールは保護者が決める「他律」ですが、年齢が上がるにつれて少しずつ自分でルールを考えることができるようになっていき、大人になる中で「自律」し自分で管理します。

私たち大人が、子どもたちが少しずつ「自律」していけるように手を貸してあげることが大切です。

「ながさき基準・夜9時まで」

以前にも紹介していますが、長崎県では、「ながさき基準」として、『ネット・電子メディア利用（遊び時間）夜9時まで』を推奨しています。子どもたちのネット・電子メディアの適切な利用と、心身の成長・発達への悪影響を減少させることを目的としています。

ルールの中への位置づけをお願いします。



◆ 受賞者紹介

（敬称略）



第67回 「子ども県展」

入選	1年	大山	夏樹
	1年	徳山	蘭
	1年	永原	瑠璃